

備えがあるから
憂いなし!!



防災に向けたマガジンスタイルペーパー

Magazine style paper Toward Disaster

防災のある暮らし

Take Free!! ¥0

04

VOL.

2015 WINTER

INDEX

1. 精神力と指揮能力を備えた消防人育成
宮城県消防学校 - 渡邊薫氏
2. 東北復興の今 - 東北ろっけんパーク
3. 外国人のための防災訓練レポート
多言語生活情報アプリ 自治体国際化協会
4. 東北を忘れない...
5. 防災現場で働く女性シリーズ〈特別篇〉

since 2013

防災最前線
interview

3・11の経験から、強い精神力と 指揮能力を備えた消防人の育成

未曾有の震災後、変化が見える 消防人を志す者の意識

東日本大震災で被災した地域の中でも、特に宮城県沿岸部においては壊滅的な被害を受けた。震災から間もなく4年が経過しようとしている現在、宮城県震災復興計画では復旧期から再生期に移行し確実にその歩みを進めようとしている。

震災以降、防災面の充実強化が求められ、その一翼を担う消防人の育成に取り組む宮城県消防学校の渡邊副校長に震災以後の消防職員の変化、そして今後の消防教育の課題について伺った。

「まず、当時のことを振り返ってみましょうか。平成23年3月11日、本校はちょうど1週間後に初任総合教育課程の学生たちの卒業式があるというタイミングでした。

非常に大きな災害であること、救助・救命活動に従事している消防人にも多くの被害が出ているという情報は、本校にもすぐに入ってきました。

とにかく人手が欲しい。そんな現場の要請に応じて、学生達は直ちに所属消防本部へ戻り、災害対応に従事しました。結局、あの年の卒業式は行われませ

んでした。」

震災直後の切羽詰まった空気が伝わるエピソードに、いきなり過酷な現場と向き合うことになった新人達の気持ちやいかにと、思い馳せずにはいられない。

「今、本校に入学してくる生徒たちのほとんどは、震災を経験しています。あの日、人々を救うために奮闘した先人の姿を見て、自分も人助けがしたいと志を抱いたという者は確かに多いです」と渡邊氏。

しかし、訓練を重ねていくなかで、その厳しい現実には挫折していく学生も中にはいるという。

重要性が高まるメンタルヘルス と地域防災力の底上げ

こうした志望動機にも反映されているように、今同校が重視しているのが、メンタルヘルスの問題だ。

「あの震災を経験した多くの人々

Kaoru Watanabe

宮城県消防学校

渡邊 薫
副校長

が、今なおPTSD*などに苦しんでいます。

被災時、特に危険な現場・悲惨な被害に直面する可能性が高い消防人が、いかに心の安定を保つか。メンタルの強さは、身につけた消防救命の知識・技術を、現場で冷静に発揮するためにも欠かせま



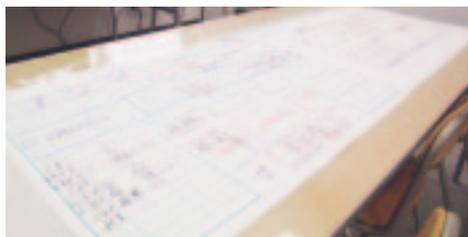
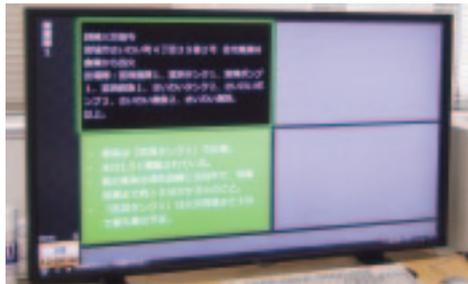
取材協力/宮城県消防学校

*PTSD
Post Traumatic Stress Disorder: 心的外傷後ストレス障害 強烈なショック体験、強い精神的なストレスが、こころのダメージとなり、時間が経っても、その経験に対して強い恐怖を感じるもの。

▶宮城県消防学校が採用したICT教育(情報通信技術教育)とは

「災害対応シミュレーションシステムでは、大型モニターに火災現場や事故現場の想定、映像を写し、どのように救護・消火活動を行うかを学生自らが考え、判断力を高めていく。

出場から災害現場に到着し活動に至る経過の中で、刻一刻と変化する災害現場状況に応じた部隊指揮や情報収集、活動図面の作成など、災害現場さながらのリアルな訓練ができるのが特徴だ。



せんから、授業でもより力を入れるようになりました」(渡邊氏)

被災者や避難所のメンタルヘルス問題は多くのメディアに取り上げられたが、その陰で救う側もまた、悩み、苦しんでいる。ことに地域に密着して活動する消防人の場合、救護者であると同時に被災者でもあることが多いのだ。

「もう一つ、これは国の方針でもありますが、地域防災力強化のため、消防団の現場指揮能力を高める取り組みが進んでいます。大規模な災害が発生すると消防署だけでは対応が困難となり、より地域に密着している消防団自らが災害現場における主体的な活動を行うことが求められています。

本校では、早速、消防庁の教育基準に沿った指揮能力向上を目的とした教育課程に取り組みました。

本校に入学する消防団員が、より高度な指揮能力を身につけられるよう、さっそく新基準に沿った指導が行われています」。

救う側のメンタルをも守り、高い指揮

ICT時代に対応できる消防人を育て ICT教育環境の整備

能力をもった消防人を育てる。喫緊の課題に、被災県の学校がどう取り組むか、他の自治体も大いに注目していることだろう。

現在の宮城県消防学校は、ちょうど震災のあった平成23年の夏に竣工したばかりの新しい校舎だ。県と民間が連携するPFI事業によって運営されており、ICT教育(情報通信技術教育)などの先進設備が全国に先駆けて導入されていることでも注目されている。

「本校では、消防に関する知識・技術を一方的に教えるのではなく、タブレット端末を用いて学生に考えさせ、また、学生自身の訓練動画を電子黒板に写し、その場で教官が指導するようにしています。このように学生達の考えや意見を引き出す思考型、双方向型の教育訓練に取り組み、教育効果の向上を目指

しています。

また、消防大学校などでも採用されている災害対応シミュレーションシステムも、いち早く導入しました。

多彩なケースの災害現場をモニター越し、刻々と変化する状況に応じた正しい判断力や、臨機応変な対応力を養うこの授業は、疑似体験を通じてメンタル強化にも効果があるのではと期待しています」(渡邊氏)。

合わせて同氏が懸念するのが、近い将来の人材不足。団塊世代が退職する一方で、少子化は進む。ベテランを補う即戦力になる若手の育成が急務なのだ。

先進教育の導入にも、いつ起きるか分からない災害に備え、優秀な消防人を輩出しようという、被災県としての高い意識が感じられる。

「誠実・努力・忍耐」を校訓に掲げた宮城県消防学校には、未曾有の震災による被害からいまだ復興の途上にある故郷を、さらなる災害から守りたいと願う学生が全県から集う。

この素晴らしい学び舎で、心・技・体を鍛えた若き消防人たちが、地域の安全・安心を守るために羽ばたいてゆくことを祈らずにはいられない。



▲タブレット端末を使っている学生

Kaoru Watanabe



わたなべ かおる
渡邊 薫
宮城県消防学校副校長兼教務部長。
(仙台市消防局派遣)
東日本大震災の際は、沿岸部に出動して救助作業の指揮等にもあたる。その経験も活かし、学校では日々、未来の消防人育成に力を注いでいる。



特集
そこには「にぎわい」と「チャンス」と「東北愛」がある。
市と商店街の連携型情報発信基地・東北ろっけんパークの今。

取材協力／東北ろっけんパーク

東北随一の繁華さを誇る仙台駅周辺。そのアーケードの一角に、震災後誕生した「東北ろっけんパーク」は、復興をめざす東北各地の産業や観光の情報と、物産の発信拠点となっている。意欲ある生産者・企業と街の人々をつなぎ、商店街のにぎわい創出にも貢献している「東北ろっけんパーク」の今をレポートした。

仙台だけでなく、東北全体を元気に。願いを込めて、2012年誕生。

「東北ろっけんパーク」が生まれたのは、まだ震災の傷跡も生々しい2012年5月。仙台市が進める「仙台経済ステップアッププラン」の一環として、被災した東北各地の産業や観光をバックアップする拠点としてオープンした。

ここであえて仙台市や宮城県、または被災県に限定せず、東北6県をテーマに掲げたところに、仙台市の東北の最大の都市たる矜持を見る気がする。



実は仙台市中心部の9商店街は、震災以前から協力的な取り組みを積極的に進めており「仙台なびつく」という情報発信拠点を共同運営していた。このノウハウを生かす形でスタートした「東北ろっけんパーク」は、地元の人、そして観光客から、オープン早々大きな注目を集めたという。

お客様や商店街の方々からは親しみを込めて、通称「ろっけんパーク」と呼ばれている。

「頑張ってるよ」という想いが届く「頑張ろう」というエールをつなぐ

「復興支援と肩ひじ張らずと



▲オープンと同時にこのにぎわい!

も、おいしいものを食べ、素敵なものと出会うことが応援になって、東北の元気につながる。そういう意味では、やはり商店街の中に、こういう場がある意義は大きいですね。交流とにぎわい創出、そして共存共栄が、東北ろっけんパークのテーマです」と語るのは、運営管理に携わる千葉富士男さん。

定期的に行われる「復興物産市東北いいもんパーク」には、各地から届いた新鮮な海産物・農産物・伝統工芸品や被災者の手づくり商品が並び、期間中は一日約1500人が訪れて、小さな店舗は大賑わいとなる。

「出品者にとってもここは、多くの人に自分たちの作ったものを売るといっただけでなく、私たちは元気で頑張ってるよ、という想いを届ける場になっていると思います」(千葉氏)。

仙台でチャンスをつかみ、さらなる飛躍を。チャレンジショップの取り組みにも注目!

さらに「東北ろっけんパーク」の上階には、チャレンジショップと創業スクエアが併設されている。1坪×6ブースという小さな店舗に並ぶのは、雑貨から食品まで多種多様な。

「店や会社を開業したいけれど資金や場所がない、というクリエイターに、出店販売の機会を」という意図で、ブースを提供しています。出店者は公募制で6か月ごとに入れ替わります。

仙台市は創業の盛んな街で、いずれは現在福岡市が持つ、創



▲ここで初めて出会った味のファンになり毎週来るという常連さんも。

業日本一のタイトル奪取を目指しています(笑)。ですから出店審査には、商品の魅力や販売計画だけでなく、ここでの反応という意欲も見ている。実際、ここでのチャレンジ販売を機に、ネットストア開設や海外展開まで見込めるようになった人もいますよ」と目を細める千葉氏。

街の人々にはおいしいものを。生産者には販売の場を。そして創業を目指す人にはチャンスの種類を。

間口2間の小さなテナントには、東北復興と街の活性化の大きな可能性が秘められている。



▲個性豊かな商品が並ぶ TRV6 チャレンジショップ(2F)

Location Profile

東北ろっけんパーク

【住所】仙台市青葉区中央2-15-8

【電話】022-395516101

【営業時間】10時～19時 無休

【eメール】

info@tohoku-

rockenpark.com



日本に生まれ育った者なら、おそらくほとんどの人が、地震や台風といった自然災害は、ある程度は日常的に起こりうるものと考えているだろう。そういう気候風土の中で、できるだけ安全に暮らすための技術・知恵を身につけながら、我が国は発展してきたのだ。

しかしながら世界から見ると、日本ほど自然災害に晒されている国というのは、極めて稀である。ということは、外国人は災害への備えや、防災の基礎というものを知らずに生活しているということになる。

震災から4年が経ち、ふたたび日本を訪れる外国人観光客が増加していること。さらには東京オリンピックの開催決定などを受け、外国人向けの防災対策の重要性はますます高まっている。



外国人防災活動
最前線レポート

自然災害の多い日本で、 いかに外国人の安全を確保すべきか？

レポートその①

「外国人支援のための防災訓練」 各国大使も参加。活況だった

去る1月27日、東京・千駄ヶ谷の東京体育館には、34ヶ国(そのうち2つは団体)120名以上の外国人と、通訳ボランティアなどのスタッフが集まっていた。

彼らが参加していたのは、東京都主催「平成26年度外国人支援のための防災訓練」。「にっぽんBOSS A I 楽(学)」のサブタイトルが冠されたこの訓練は、災害から命と暮らしを守るために、日本が培ってきた伝統文化や知恵などを楽しく学びつつ、いざという時に備える実践的な防災訓練を経験してもらおうというイベントだ。

各国の言葉が賑やかに飛び交うホールの中、色違いのベストを身に着けた5つのグループは、各国大使やその家族、外資系企業のビジネスマン、留学生など、幅広い年齢・国籍・立場の人々で構成されている。
町火消しの衣装をまとい、彼らが江戸の防災にどんな役



▲毛布を担架にして怪我人を運ぶ訓練

割を果たしていたかを学ぶコーナー、紙芝居やかかるたで覚える防災の基礎知識、消防隊員の指導のもと、ありあわせの毛布を担架にして怪我人を運ぶ訓練や消火器の使い方など、約2時間にわたって、様々な防災プログラムを体験した。
参加者の中には、東日本大震災後、一時帰国していたが、やはり日本で学びたくて再来日した、という人も。
「震災の時は、建物や交通機



▲防災紙芝居 — 水害対策にまつわる故事を紹介



▲江戸の防災を学んだあとは町火消しの衣装をまとい記念撮影

関の安全性にも驚いたが、何よりもなぜ日本人はパニックにならないのかが不思議だった。長い歴史の中で、災害への心構えができていたんですね」と語ってくれたのは、モンゴルからやってきたという男性だ。
災害は恐ろしいけれど、大好きな日本で安心して暮らしたいから…と、消火訓練や地震車体験にも熱心に取り組んでいた。

～くらしを守る 企業を守る 社会を守る～

テイセン

レスキューツール
LUKAS eドローリック (第2世代)が **新登場!!**

第2世代の特徴
パワーアップ! 使用時間が従来の2倍!
軽量化!

eドローリックの特徴
□スイッチオンで直ちに救助!
□2電源方式!(Liイオンバッテリー、AC100V)
□使用時間:約1時間!

SP310E2 スプレッター
S311E2 カッター
SC250E2 コンピツール

電動油圧救助資機材

帝国繊維株式会社 [本社]〒103-0027 東京都中央区日本橋2-1-10 柳屋ビル7F
TEL:03-3281-3033 FAX:03-3274-6397 http://www.teisen.co.jp

Normeca Asia
SUPPLIER OF MEDICAL EQUIPMENT

日本で最初に災害・救急医療を導入!
「正しい教育」と「正しい装備」を提供します!
<http://www.normeca-asia.jp>

株式会社ノルメカエイシア 東京都台東区浅草橋3丁目19-3
TEL:03-5687-3899(代) FAX:03-5687-3911



▲災害用伝言板への登録



▲初期消火体験—水消火器を使って実際の炎を消火



▲起震車体験—大地震の揺れを体験



▲防災かるた—地震が発生したときの心構えを学ぶ

「多言語生活情報アプリ」が好評。

レポートその②

防災訓練当日、会場となった体育館内の二室にブース出展していたのが、一般財団法人自治体国際化協会(通称クレア)だ。

全国の自治体が共同で運営するこの団体では、自治体が海外とビジネスや文化交流などを行う際の窓口兼サポート役として、世界の国々とながりをもっている。

そのクレアが昨年春にリリースし、日本で暮らす外国人から注目を集めているのが「多言語生活情報アプリ」。これはスマホやタブレット対応の無料アプリで、外国人が日本で暮らすために欠かせない「在留資格」「住ま

い」「医療」などの17項目の情報を、13言語で提供している。

緊急地震速報などにも対応し、防災ツールとしても役立つとして、このたび防災訓練の場でアピールを行った。

アプリの開発に携わり、当日外国人参加者へのプレゼンテーションを行ったクレアの建道文子さんは、彼らの反応について「使い



▲クレアの建道文子さん

慣れたスマホでこんな情報が！と驚いたり、喜んでくださったりと、すぐにその場でダウンロードを試みってくれる方もいて、とても好評でした。

近年では地方都市にも多くの外国人が居住していますが、小さな自治体ではここまで多言語に対応した情報発信は難しいと考えます。

登録も利用もすべて無料のアプリですから、ぜひ自治体や官公庁サイトなどからリンクを貼って、全国の外国人の皆さんにご活用いただきたいですね」と手応えを感じていた様子だ。

本アプリは、現在の13言語に加え、やさしいほんごを3月下旬に追加予定。災害やトラブルの現場で、日本人とのコミュニケーションがより取りやすくなるようアップグレードを進めていくことになっている。

多言語生活情報アプリ

～日本での生活に必要な情報を、いつもあなたの手元に～
http://www.clair.or.jp/tagengo/

iOS/Android アプリ



アプリをダウンロードすると、言語選択の画面が起動。該当する言語を選択。

在留しての行政手続きから日常生活における便利な項目が収録されている。

アプリ内には、17項目13言語それぞれのPDFもあるので、見やすい方で見ることができる。

右下にある「災害 Disaster」のボタンでは、震度5以上の緊急地震速報の気象庁からの情報も取得できる。

外国人はもとより、日本人でも有効に使える。ダウンロードして、外国の友人・知人に教えてあげると、役立つのでは。

アプリ画面



アプリTOP

緊急地震速報の画面

PDF画面

スマートフォンやタブレットからダウンロード



iPhone



Android

※iPhoneアプリは3月下旬までアップデートの都合で一時的DLできない場合があります。

一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR) 多文化共生部多文化共生課
東京都千代田区麹町1-7 【電話】03-5213-1725
http://www.clair.or.jp/

危機管理とBCPの専門誌

リスク対策.com

The risk management magazine for companies & communities

継続は力なり。

危機管理に強くなるには、継続的に「学ぶ」ことが不可欠です。
ぜひ、組織で1冊定期購読を!



定価1700円+税 奇数月発行

リスク対策 検索 新建新聞社 リスク対策.com編集部
TEL.03-3556-5525 risk-t@shinkenpress.co.jp

MRI Research Associates

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社

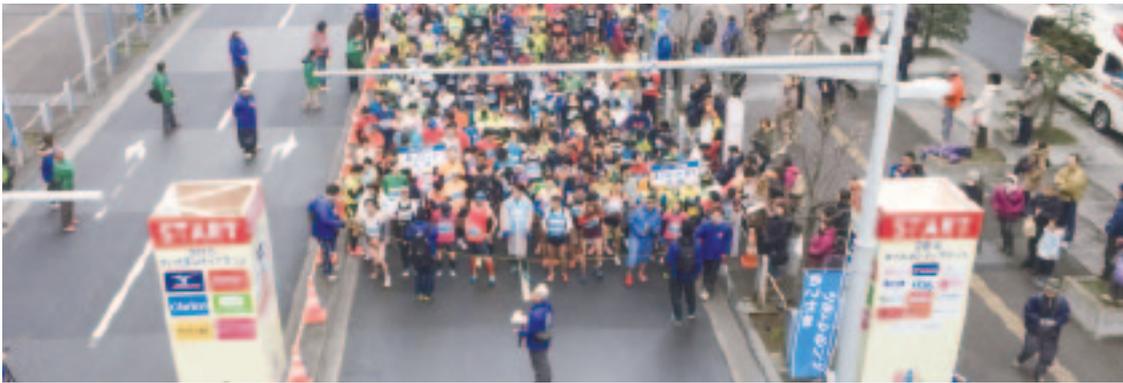
三菱総研グループの一員として、総合的なサービスを提供します。

防災分野のサービス例

- ・災害をもたらす現象の解析支援
- ・防災計画・対策の検討支援
- ・災害による被害想定作成支援
- ・対応・対策の検証支援
- ・上記を支える、ステークホルダー間のコミュニケーションの支援



東京都千代田区内神田1-13-1
TEL:03-3518-8505 http://www.mri-ra.co.jp/



おぼえとこっ!
スタッフの
防災記
vol.02

さいたまシティマラソンを

見学してきました!



2月22日(日)、東京では、第9回目の東京マラソンが行われましたが、隣県の埼玉県さいたま市でもこの日は、第14回目のさいたまシティマラソンが開催されていました。

そこで、おぼえとこっ!スタッフも会場に見学に行ってみました。

(えっ!走らないのか!って:今回は見学です)

天気は、前日から一転して、曇り空。雨も心配されましたが、なんとかもってくれました。多くのランナーがスタートを切

り、順調にスタートしました。11時半には、無事に大会も終わりました。

一日、大会を見学しながら気になったのが、運営に関するオペレーションです。

当日は、ボランティアの方も含めて2万人近くの方が関わったのでは。

参加者が、気分を悪くしたり、ケガをした場合に備えての救護体制も救護所をはじめスタッフ等しっかり準備されていたように思います。

大規模イベントにおける、リスクマネジメントを考える。

こうした市民参加型の大規模イベントでは、マスギャザリングにおけるリスクマネジメントの重要性を再認識しました。

(医療分野でのマスギャザリングのリスクマネジメントは「おぼえとこっ!」Vol.03を参照してください)

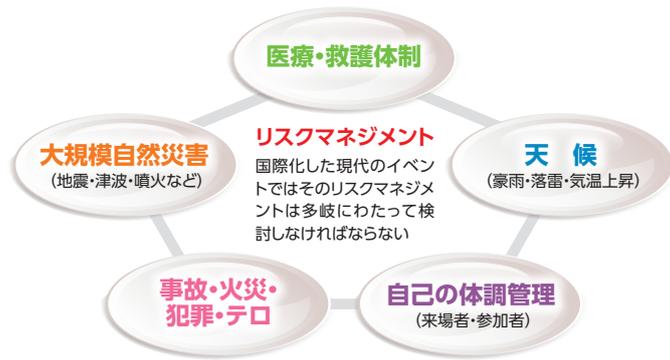
医療分野のみならず、災害・

犯罪に対してのリスクマネジメントは、現代ではより一層重要視される事柄になってきました。

今回の東京マラソンでは、1万人規模での「ランニングポリス」も試験導入され、万全の備えを期したというニュースがありました。

近年、国内では多種多様な国

際試合やイベントが多く開催されるようになってきました。スポーツイベントなどでは、海外からも参加する方が増えてきています。国際化とともに、主催側も参加側も、医療・災害・犯罪など多岐にわたるリスクマネジメント、防災意識と情報を身につけて、運営・参加していただくことが、今後は必要になってくるのだからと感じる1日でありました。



皆さまに笑顔と豊かさをお届けする
“グッドスマイルメディア”を目指して



総合印刷・マルチメディア・オンデマンド印刷・広告代理業

〒338-0007 さいたま市中央区阿弥 5-8-36 TEL.048-840-2112 望月印刷 発行

消防・救助・救急・消防団の活動をサポートする「ファイアー・レスキュー・イーエムエス」 Signal

FIRE RESCUE EMS

for FIRE FIGHTERS, RESCUE SQUAD, EMERGENCY MEDICAL SERVICES, FIRE CORPS.

TEL. ☎ 0120-607-444
受付時間: 9:30~17:30 ■休業日: 土・日・祝日

FAX. ☎ 0120-238-119
■24時間受付

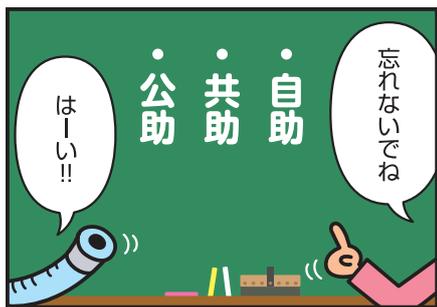
消防グッズのことなら 株式会社 シグナルOS
〒733-0833 広島市西区廣瀬センター2丁目2-25 E-mail: info@signalos.co.jp

オフィシャルホームページ
シグナルOS (株) 営業部
消防アイテム
今すぐアクセス!!
1000点以上の品揃え!!
<http://www.signalos.co.jp>

携帯専用
カタログ
請求はこちら

4コマ劇場

自助・共助・公助って知ってる?



- ・まずは自分の安全
- ・次に近所の助け合い
- ・そして行政からの助けを待つ



obopedia Vol.4

何が何でも「自助」
安全が確認できたら「共助」

大きな災害が発生すると、様々な状況で直ぐに消防車や救急車、警察なども現場になかなか到着できない状況が起こりえます。
(道路の陥没や火災、瓦礫による通行止めなど)そこで、大切なのが「共助」。地域の人がお互いに助け合い、公助が来るまでに出来る範囲の助け合いをする。救える命を救う大きな差になります。どうですか? ご近所さんとのお付き合いは出来ていますか?

日頃から、あいさつや声がけなどで、お互いが顔見知りになることも防災活動のひとつです。でも、一番は「自分で自分を守る」そこは忘れないで、無茶はしないこと。

よい!スル「おぼえとこっ!

INFORMATION SQUARE

ご存知ですか? 便利なスマホアプリ「救命ナビ」

仙台市消防局

今回ご紹介するのは、仙台市消防局が作成し無料公開しているスマホアプリ「救命ナビ」。
3つの機能が備わっています。①「救命ナビ」119番通報及び心肺蘇生のナビゲーション機能

②「応急手当を学ぶ」胸骨圧迫、人工呼吸等の一次救命処置や止血法、やけどなど21もの応急手当などが学べる③「仙台市内のAEDマップ」及びAED設置情報の3つ。

「救命ナビ」は画面をタップすると音声で処置の手順を解説。
さらに一次救命処置(胸骨圧迫や人工呼吸など)は、音声と動画で誘導、それに従って行えるので、とても心強く、頼もしい!
講習を受けた経験はあるが忘れてしまったとか、救急現場に遭遇したら不安や恐怖で躊躇しちゃいそうといった方の背中を後押しし、勇気を持って応急手当ができる。
「救命ナビ」は、仙台市民以外でも十分使える。例えば、子どものスポーツクラブの保護者内で救急訓練にとか、企業や団体のAED講習の予習・復習にとか。

▲「救命ナビ」画面 ▲胸骨圧迫の方法

仙台消防局では、救命講習会や防災訓練、各種イベントなどでも活用しているとのこと。
アプリは無料。下記QRコードからダウンロードして、常備してみてはいかがでしょうか。
また、仙台消防局では、アプリの他にも「e-ラーニング」も展開中。休日・夜間など自分に合った時間に、このシステムで事前学習すると、普通救命講習1の講習時間が1時間短縮になるなど、受講者の時間的負担が軽減されます。
「多くの救急現場でその場に居合わせた人によって応急手当が的確に実施され、救命率向上につながることを期待しつつ、応急手当の普及啓発に努めていきたい」と。(仙台市消防局職員談)
詳しい情報は、ホームページでも紹介していますのでアクセスください。

仙台 救命アプリ 検索

▲Android用 ▲iPhone用

3.11 東北を忘れない...

Vol.4

—東北エリアからのレポート—

新しい生活と新しいご近所づきあい元年

震災から3年が過ぎ仙台市内各所に復興公営住宅や一軒家の復興住宅が建ち始めています。まだ始まったばかりとはいえ仮設暮らしから本暮らしへ移り、希望を持って新しい生活を始めた人が増えてきたのはとても嬉しく感じます。現在、復興公営住宅において課題となっているのは、この新しいコミュニティ(復興公営住宅で一つの新しい町内会ができることもある)に集まってきた住民同士のつながりをどうやって作っていくかということです。入居してきた皆さんは仙台市沿岸部はもとより県外沿岸部の方も多くおり、もともと伝統や風習、ひいては住民気質などカラーの違うところから一箇所に集まってきた背景があります。その中で町内会というまとまりを作るのは大変です。私たちも復興公営住宅の集会所で落語会や茶話会などの催しを開きながら自治会の皆さんの住民同士のコミュニケーションのお手伝いをさせて頂いています。まだまだ復興は始まったばかり、息の長い支援とご縁作りが必要だと実感しています。



▲新しいコミュニティでのつながりを支援するために開催している落語会

(仙台沿岸部まちづくり協議会事務局) 心をつなぐ落語会事務局 佐藤研

第4回目は、東日本大震災からずっと、人と地域によりそって情報を発信しているラジオDJさんが登場!



鈴木悦子さん
 オフィスe代表
 仙台シイエフエム「ラジオ3」
 プロデュースディレクター・
 パーソナリティ
<http://www.radio3.jp/>

3・11以来、仙台シイエフエム「ラジオ3」で、震災関連情報を発信し続けている女性がいます。
 震災直後は避難生活に必要な物資や医療の情報を。それ以降は、被災者の声や復興支援に携わる人、ボランティアの人々の想いを、ラジオの電波にのせて。
 多くの人の声や想いを伝えることから生まれるあたたかなつながりと、復興への道りについてお話を伺いました。

Q1 発災当時、鈴木さんはどんな状況だったのでしょうか?

鈴木悦子さん / あの時、私は仙台市郊外の自宅にいました。幸い地盤のしっかりした地域だったため被害らしい被害もなく、おかげでラジオや携帯で情報収集して津波警報が飛び込んできても、まだあそこまで激甚な被害が出ているとは想像できなかったというのが正直なところです。

自宅は停電してしまいましたが、その晩はカセットコンロとインスタントラーメンでしのぎ、翌日になって名取の知人を見舞おうと自転車で出かけて、改めて被害の大きさを知って愕然...という感じですね。

Q2 自分たちが大災害に直面しているのだと気付いた後は、どのような取り組みをなさったのでしょうか?

まずは避難所に、当座の支援物資を届けることから始めました。たまたま野菜がいくつかあったのですが、そのまま運んでも調理できないだろうと、一夜漬けやおひたしにして届けたのが、おにぎりや菓子パン続いだった避難所ではとても喜ばれましたね。

こうした個人的な動きに加え、私にはラジオパーソナリティという仕事がありました。3月は番組の改編期で、新プログラムの準備も進んでいたのですが、それらはすべて震災関連の内容にしました。

震災直後は、給水車や食料配布の予定といった、地域の細やかな生活情報を。救援活動や復興支援が本格化してからは、被災者の人たちの心を癒す音楽やトークの合間に、被災地の現状やボランティア活動の予定などを伝え続けました。

語り部タフシーの取材
 ▲運転手さんへの取材



Q3 鈴木さんは、多くの人に取材し、生の声を届けることにこだわったと伺っています。どんな意図があったのでしょうか?

震災前から、私は「人と人、人とコミュニティをつなぐ」をコンセプトに番組を作ってきました。中でも重視してきたのが、普通ならインタビューされる機会がない、現場にいる人の声を拾うことです。

避難所や復興住宅で、じつと悲しみに耐えていた被災者。お店や会社を失ったけれど、再建に向けて頑張っている人。ボランティアで来てくださったNPOや実際に被災者と触れ合っている人たち。全国からやってきた自衛隊員etc.



震災後4年が経とうとしていますが、今でも番組内では定期的な、かつて取材した人を追いかけて、あれから変わったこと、変わらないことなど、今の想いを語ってもらうプログラムを設けています。

震災はつらい経験ですし、復興への道もいまだ遠いです。でも、あの日をきっかけに生まれたあたたかな絆や、新たなつながりは確かにあり、被災者の皆さんは逞しく今を生きようとしています。その姿を見つめ、伝えていくことが、私のライフワークになっています。



編集後記



今回、初めて主担当として制作に携わりました。仙台に取材に行き、東日本大震災当時の話を聞くことができ、4年たった今でも復興していないところがあることを気付かされました。その中で、復興の為に尽力されている方々の思いを直接知ることができました。少しでも皆様へお伝えできればと思います。
 編集員 / 本村和之

記事に関するご意見、ご感想、取材の申込はこちらのQRコードを読み込んで、お送りください。



おぼえとこっ! Vol.04 2015年3月発行
 編集・発行 / TSP太陽株式会社
 〒153-0043 東京都目黒区東山1-17-16
 TEL : 03-3719-3357 <http://www.tsp-taiyo.co.jp/>
 協力 / 宮城県消防学校
 東北ろっけんパーク 仙台なびっく
 東京都生活文化局都民生活部
 一般財団法人自治体国際化協会
 仙台シイエフエム
 制作 / 「おぼえとこっ!」編集委員会